

September

2018

リバイバルにおける賛美隊の使命

「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」

彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。(Ⅱ歴代誌20:22)

代表 エルサレム杉澤

皆さまの尊いお祈りとご献金を感謝いたします。9月24日～28日の日程でカンボジアチームが派遣されます。礎の石孤児院カンボジアの働きの進展とインターネット礼拝会員のカバリングにおいて、主の御心が完全に全うされるようお祈りください。

当ミッションの土台である主の十字架クリスチャンセンター東京アンテオケ教会は神さまの示しに従い、海外に聖書を持ち込むことからミッションの働きを始めました。

続くフィリピンのダバオ宣教の初期の宣教賛美チームはお世辞にもうまいとは言えませんでした。クルセードの集会では賛美で人を集めるのですが、人を集めるどころか集まった人々が散ってしまうのです。そのような賛美の状況を大きく転換させることになったのは預言で語られた神のことばでした。

「賛美隊を立てる」と語られ、賛美隊が何を意味するかよく分からないまま、その年のイスラエルチームではめいめいがギターやキーボードを担ぎ、シナイ山山頂で主を賛美しました。全員が涙する主の深いご臨在があり、それを境に賛美の働きの変化が始まりました。

それ以来、海外宣教チームが遣わされる宣教地で賛美チームを通して聖霊の働きが大きく変化しています。クルセードでは賛美を通して救いが起こり、いやしの賜物の働きも顕著になります。賛美における主のご臨在を通して、主に触れられる方々が起こされ、賛美の働きに大きな変化が起こっています。賛美を土台とした終末のリバイバルの働きの使命を全うするための備えが着々となされています。

聖書では「彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、」神の戦いとなって約束の勝利が現されました。彼ら「賛美隊」の使命は、主に従って戦いの最前線で喜びと賛美の声をあげることでした。賛美隊の使命に堅く立ち、喜びと賛美の声をあげ続けるとき神の戦いとなり、リバイバルにおいて主が勝利と栄光を現されるのです。



写真右：白馬キャンプ聖会 賛美

パウロ秋元牧師（中央）

